

外部評価委員長による令和6年度博物館事業点検評価の外部評価総括

令和6年度は、神戸市立博物館が掲げる「博物館使命の四大要素」への評価は以下の通りである。博物館の自己評価としては、「歴史と文化の継承と研究」A(優れている)、「歴史と文化への窓口」B(求められる能力や役割を果たしている)、「人々とともに歩む」A、「やさしさと安心の確保」Bである。外部評価では、各項目AあるいはBであり、資料保存・調査研究等を含む「歴史と文化の継承と研究」、普及事業等の「人々とともに歩む」については全員A(優れている)であった。

令和6年度特別展では、「Colorful JAPAN—幕末・明治手彩色写真への旅」「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」「デ・キリコ展」「古地図からひろがる世界—南波松太郎・蒐集70年の軌跡」「日本銅版画 30の極み」が開催された。いずれも多数の観覧者に来ていただいたことは喜ばしい。

「歴史と文化の継承と研究」については、資料の受け入れ、保存、補修、展覧会準備、研究紀要刊行が順調に行われた。当館のコレクションとして特色があり全国的にも有名な「南蛮美術」「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」「びいどろ・ぎやまん・ガラス」「古地図」の学芸員による調査研究が進み、その成果が自主企画展として開催されたことは大変意義あることで高く評価される。コレクション展示室の運営も各種テーマを設定して内容が充実してきている。収蔵庫・展示室の日常的な監視体制が充実して、温湿度をはじめとした保存環境が整備されたことも大きなことである。

「歴史と文化への窓口」については、前述の特別展が開催された。「Colorful JAPAN—幕末・明治手彩色写真への旅」は、手彩色写真を主題としたものであり、神戸という地にある当館の特色を見せるものであった。幕末・維新期の社会・風俗をみる上で貴重である。「テルマエ展」は入浴文化の様相を見せるもので、年代的にも幅広い来場者を迎えることができたのは成果である。「デ・キリコ展」は、東京では多数の観覧者を集めたが神戸では目標数を下回った。残念なことではあるが、関西の地域性なども考慮すれば健闘していると言えよう。南波松太郎蒐集品の「古地図展」、当館が誇るコレクションである「銅版画展」は、神戸市博の特性をよく示すことができた展示で、学術的にも価値が高いものである。いずれの展覧会も入館者の満足度が高いことは特筆すべきことで学芸員の努力のたまものである。

「人々とともに歩む」については、地域との連携事業、ナイトタイムミュージアムなど、周辺地域の観光と結びつける事業も行われ充実してきている。学芸員が学校へ出向いて行う連携授業は、現場の先生方との交流も試みられており、評価が高い事業である。今後も小学生の地域見学などとも結びつけながら多数の生徒たちの来館が望まれる。実物資料を見ながら歴史や文化を考えることは現代の子供たちにとって大切なことである。

「やさしさと安心の確保」については、前年度大規模な改修が行われたこともあり、小規模修繕が継続的に行われた。インフォメーション、ミュージアムショップ、カフェの運営なども質を維持しながら来館者に満足していただける体制を継続している。職員あがての様々な工夫が積み重ねられて事業が展開されており、今後も調査研究の成果を生かした展示、特色あるコレクションと神戸の地域性をふまえた事業が期待される。

外部評価を行った委員

学校教育	長崎康子	神戸市立白川小学校校長
社会教育	森田祐子	一般社団法人神戸市婦人団体協議会副会長
家庭教育	木原正剛	特定非営利活動法人こうべユースネット理事
市民代表	村上蘭	神戸市ネットモニター
学識経験	原田正俊	関西大学文学部教授
学識経験	黒田千晴	神戸大学大学教育推進機構グローバル教育センター准教授
学識経験	大河内智之	奈良大学文学部教授
地域団体	松岡辰弥	旧居留地連絡協議会会長

博物館使命の四大要素
歴史と文化の継承と研究

この要素に対する外部評価

A A A A A A A A

この要素に対する博物館の自己評価 A 優れている

この要素に含まれる事業群と評価

自己評価

委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G	委員H	委員I	委員J	委員K	委員L	委員M
A	B	A	A	A	A	A	A					
B	A	A	A	B	B	B	A					
B	A	A	A	A	B	B	A					
B	A	A	A	B	A	A	B					

歴史と文化の継承と研究

自己評価詳細

歴史分野を中心に展示活用可能な資料の収集がなされるとともに、展示環境・保存環境を適切な状態で維持するなど、所定の役割を果たすことができた。当館のコレクションの礎である「南蛮美術」「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」「びいどろ・ぎやまん・ガラス」「古地図」などについての調査研究、その成果として自主企画展を開催したほか、研究紀要を滞りなく刊行した。引き続き、貴重なコレクションを後世に伝えるべく、適切な資料保存に努めるとともに、調査研究を実施していく。

また、博物館法の改正趣旨を反映し、主要な所蔵資料を高解像度の画像で提供するなど、デジタルアーカイブの取り組みも進めており、公開件数、アクセス数とも増加している。

以上のことから、本稿目をA評価とする。

「南蛮美術」「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」「古地図」「びいどろ・ぎやまん・ガラス」などの自主企画展を開催して、文化の継承に努めている。

資料の保存や調査研究も進めている。

デジタルアーカイブの取り組みも評価。

資料受入について、時期、タイミングなど「運」の要素もあり、日常的な受入態勢はあると思われるので、A評価としたい。

資料補修については、各展示に関する館内記述を見ても、非常に良くいきどいていると思われるので、それぞれA評価としたい。

神戸に関連する歴史的な資料が、現在も継続的に集められて適切な保管がなされ、研究され続けていることを頼もしく感じております。

いつも展示を観ながら「こんな古いものをどうやって維持して 展示に至っているんだろう」と疑問に感じていたので、資料を拝見して実際の保存環境管理を知り、そのきめ細やかな対応に頭が下がる思いがしました。

今後の気候変動を考慮すると大変な作業だと感じますが、是非適切に続けていただきたいです。

部分的個人的で恐縮ですが「銅鐸展」では、その調査研究が写真も合わせて分かりやすく展示解説されていて、とても興味深かったです。

デジタルアーカイブの充実は、物理的距離を縮めることができ とても意義がある活動だと感じますが、一方でセキュリティ面において十分な対策を施していただきたいです。

調査研究については、今後も着実な成果が出されることが期待され、研究成果が展示に反映されることが望ましい。学芸員に管理の仕事だけでなく、研究の時間を与えることが必要である。

令和6年度自己点検評価における「1. 歴史と文化の継承と研究」を拝読し、当館の専門職員の方々が、実務と研究を両立しておられることがよく分かった。総じて取り組みは堅実であり、A評価は十分に妥当と判断できる。

まず、歴史・考古・美術といった複数領域において、資料収集、調査、展示活用、成果発信の各段階が計画的に遂行されている点が注目される。南蛮美術、桜ヶ丘銅鐸群、びいどろ・ぎやまん・ガラス、古地図といった当館を特徴づける主要コレクションに関して、継続的かつ精緻な研究が行われ、それが自主企画展や研究紀要等に確実に結実している点は、学術施設としての基盤が強固であることを示唆していると考ええる。

保存環境の管理については、温湿度モニタリング、収蔵庫の清掃、生物環境調査など、基礎的作業が確実に実施されており、異常時への対応も適切であったと報告されている。燻蒸剤廃止後の代替手法検討を進めている点は、リスクマネジメントの観点から大いに評価できる。他方で、虫害の局所的発生や空調の不安定さといった課題がみられることから、引き続き、収蔵品を害虫被害から守る取り組みを強化していただきたい。

資料補修の領域においては、年度計画に沿った補修が着実に行われ、翌年度に予定される重要文化財補修に向けた準備も進んでいる。大型資料の補修方法や工期の確保など、なお検討すべき事項は残るが、文化庁との協議手続を含め、全体として適切な進捗が確認できる。

さらに、調査研究活動は活発であり、次年度以降の展覧会構想を見据えた資料調査が複数の学芸員により進められている点が特に高く評価できる。研究発信についても、論文、講演、普及的記事など複数の媒体を通じて多面的に実施されており、多方面での業務に取り組みつつ、専門性を活かした研究活動を行っておられることに敬意を表する。デジタルアーカイブの公開件数が増加し、アクセス数が大幅に伸びている点も大いに評価できる。

資料受け入れについて、個人や寺院との関係性の中で寄贈を受け入れられており、健全である。購入については予算及び決算額が不明であるものの、ごく小額であろうと推察される。古美術市場に現れた神戸ゆかりの資料に即応的に対応するためにも、通常予算でのこの部分の予算の増大が必要と拝察される。

資料受入

・寄贈や寄託は先方ありきの話ですので、数の予算化は難しいと思います。

資料保存

・適切な温度・湿度管理ができ、虫害対策もできているようで安心しました。

資料補修

・補修が長期間になる場合、単年度での予算策定など、難しい部分もあると と思いますが、工夫してお願いします。

・計画されていた資料の補修作業をすべて問題なく終えることはよかったです。

調査研究

・年度内に予定されていた年報No.40の公開がずれ込みましたが、概ね予定されていた通りにできていると思います。

歴史と文化への窓口

「Colorful JAPAN―幕末・明治手彩色写真への旅」「テルマエ展 おふろでつながる古代ローマと日本」「デ・キリコ展」「南波松太郎・蒐集70年の軌跡」内容が工夫され、興味深い展示だった点、「デ・キリコ展」の集客が低迷した点と、SHOPの売上げが低かった点に、工夫が必要と感じました。

自己評価詳細

特別展の企画内容や図録などを充実させ、事故や遅延なく開催・終了できたが、いずれの展覧会も目標入館者数に及ばなかった。学芸員が一から作り上げていく自主企画展については、企画性の高さを保ちつつ、補助金の活用を検討するとともに、大型巡回展については当館での開催時期やより効果的な広報戦略の展開等を検討しながら取り組んでいく。引き続き、来館者の高い満足度を維持しながら観覧者数の増加に努めていく。画像利用・館外貸出は問題なく円滑に対応できている。以上のことから本稿目をB評価とする。

外部評価委員コメント

「Colorful JAPAN―幕末・明治手彩色写真への旅」「テルマエ展 おふろでつながる古代ローマと日本」「デ・キリコ展」「南波松太郎・蒐集70年の軌跡」内容が工夫され、興味深い展示だった点、「デ・キリコ展」の集客が低迷した点と、SHOPの売上げが低かった点に、工夫が必要と感じました。

自己評価の「B」は、目標入場者数に重きを置いたためと思われるますが、各常設展、特別展を拝見しましたが、とても面白く、興味深く、すばらしいと思われます。内容は明かに優れており、A評価としたい。

見る側の思い込みもあり、広報は難しい面はあると思われますが、見てもらえば必ずすばらしさがわかると思うので、なんとかお願いしたい。

特別利用等は、自己評価と同じとします。

常設展は、工夫された展示方法に五感が刺激され、いつも興味深く拝見しております。子供の観覧者も多く 明るい印象のある場所です。極めて静かな環境が求められないのであれば、展示される時代や状況を感じられる海の音や交通の音、音楽など、小さな音響があると より展示が活きて、他の鑑賞者の話し声などが気にならず良いかと思ひます。

企画展は個性的で興味深いものが多く、毎回ワクワクさせて頂いております。個人的な意見で恐縮ですが、キャプションについて、字の大きさ、掲示の位置などをもう少し見やすい工夫して欲しいと感じます。

ミュージアムショップについて、展示を見終わった人や ロッカーから荷物を出し終えた人が立っいて、入口が見えにくいことがあります。 ミュージアムショップ目的で 美術館や博物館に行くことも多々あるため、ショップの場所の掲示をしっかりといただけると嬉しいです。

Colorful JAPAN 一幕末明治手彩色写真の旅は、自主企画として神戸市博らしい企画であり、評価される。ただ、観覧者を引きつける内容紹介の仕方に工夫が必要である。ミュージアムグッズの開発は、専門業者を交えて学芸員の意見も入れながら作成していくことが望まれる。

学芸員の方の専門性を生かした自主企画展についても、特別展についても、来場者の満足度は非常に高い一方で、目標入場者数に到達しなかった点が残念である。いずれの展覧会についても、周辺のホテルや商業施設、観光施設などと連携して地域の活性化に繋げようとしておられる努力に敬意を表する。SNSでの広報を含めた広報活動全般も強化しておられる。

それにもかかわらず、目標入場者数に到達しなかったという事実をみるに、そもそも設定した目標が高すぎたのではないか？

ミュージアムショップについては、単年度に業者が2度も変更になるのはかなり異例の事態だと思ふ。業者が定まり、安定して営業活動が続けられるようになれば、新たなグッズの開発なども見込まれ、収益向上につながるのではないかと期待する。

常設展示での多数の資料の公開は、資料の価値と魅力を市民と広く共有するためにかかせないものであり、1年を通じてさまざまなテーマが構築され、学芸課の底力が発揮されている。5本の特別展の開催をなしたことも、当たり前なことではない。学芸・総務双方の密接な協力のもと、当館の展覧会運営ノウハウが十分に活かされて初めて実現するものであり、十分に評価したい。企画展は一本だが、神戸地域美術史を推進する内容と拝察する。

ミュージアムグッズ開発については、予算などわからず判断しづらい。

常設展

- ・不調がおこる展示スポットについては、早急に対策(交換等)を望みます。
- ・パネル・キャプションの誤字にはご注意ください。(小さな点でも来場者の満足度を下げってしまう可能性があるため)
- ・情報コーナーの端末キャパオーバーは、対策を何かお考えでしょうか。
- ・学習支援交流員によるワークショップの回数が大幅に増加したことはよかったですと思います。お忙しいと思いますが、次年度以降もよろしくお願ひします。

特別展

- ・目標入場者数に届かなかったのは残念。(収支の面からも)情宣方法を少し見直してもいいかもしれません。
- ・特別展は全て拝見しましたが、「テルマエ展」は我々にも受け入れやすく、いい企画だったと思います。

企画展

- ・資料の自己点検評価に企画展に関する記載がありませんでしたが、個人的には興味を引く展示が多かったと思います。

特別利用等

- ・先方ありきの件ですので、数値管理は難しいと思います。

広報

- ・入場者数を増やすためにも、広報戦略は外部の意見なども取り入れて、少し再構築してもいいかもしれません。
- ・神戸空港にチラシ等を置いてもいいかもしれません。

広聴

- ・来場者が2つのアンケートに答えることはあまりないと思いますので、特別展主催者側のアンケートと融合させる方法を模索されては如何でしょうか。

ミュージアムショップ

- ・業者が変わったからかもしれませんが、在庫管理はご徹底ください。

人々とともに歩む

外部評価委員コメント

自己評価詳細

20時までの夜間開館を機に、地域連携事業としてのナイトミュージアム関連イベントや相互サービスなど近隣施設との連携を進めた。ナイトタイムでの学芸員の展示解説会、月末の金曜日にはナイトタイムミュージアムとして地階講堂での音楽ライブやワークショップなどを実施し、博物館のみならず、まちの回遊性や地域社会の活性化に貢献する取り組みを進めた。

学校との連携では、博物館の職員・学芸員が学校に出向き、学校教員と連携して授業をつくりあげるアウトリーチ活動のほか、オンライン授業プログラムを試行した。学校連携においては最終的に子供たちに博物館に来てもらって本物に触れてもらうことを念頭に、今後も新たな取り組みを進めていきたい。

大学連携における近隣の大学への学芸員の講義出講や博物館実習生の受入れ、学習支援交流員の活動も事業創出型を原則としつつ、学芸員らとの新たな情報共有の仕組みの中で広がりを見せており、今後一層の充実が見込める。

期待以上の活動を果たせたことから本項目をA評価とした。本項目は、地域連携・学校連携等、地域の人々とともに歩む博物館にとって重要であり、次年度以降にさらなる成果につながるよう取り組みを進めていく。

外部評価委員コメント

- ・連携授業は非常に好評である。本物に勝るものはなく、子供たちの興味関心を高める非常によい学習となっている。しかし、年間100回程度と制限があるため、希望しても実施できない学校が多い。学芸員の方など職員の方の人数の関係で仕方がないかもしれないが、何とか希望する学校を全て受け容れていただけないだろうか。
- ・年度末の先行予約だと、自分が4月からどの学年を担当するかに関わらず「学校」として申し込むこととなる。「学校」としての自校プランが確定していないと申し込みにくく、年度初めになってから問い合わせた学校もある。「学校」としての自校プランを作成したうえで年度末に申し込めるよう、予約については早めに広報していただけるとありがたい。
- ・小学校3年生の社会科「港のうつりかわり」の学習で、港めぐりに行く学校が多い。その際、博物館を見学し神戸のうつりかわりを学ぶことを推進していけたらと思う。

幅広い連携が実施されている点が評価できる。

オンライン授業を増やしたり、神戸大学や甲南大学等との連携も視野に入れるのはどうか。

人気のある項目・取り組みの枠を拡げる工夫が出来るか。

地域連携、地域の中の博物館の実践に敬意を表します。このうち博学連携について、どのように実践するか、館内の事情や相手方の希望、動向をふまえつつ、努力されていると思われるため、A評価とします。他の事業群は、自己評価と同じとします。

博物館内にとどまらず、外に出てのワークショップやイベントの開催は観光地としての街の魅力の底上げにも繋がり、素晴らしいと感じます。

子供や学生を対象にした講座やワークショップは、家庭や学校ではできない知識の掘り下げや、興味のきっかけづくりに繋がると思うので、運営は本当に大変だと想像しますが是非続けていただきたいです。

スタンプラリー(スタンプを重ねて絵を浮き上がらせるもの)に挑戦しましたが意外と大変でした。(短期旅行者は参加する気にならないかもしれません…)子供や観光客も参加されることも加味して、2〜3か所で完成するものがあったても良いのではないかと思います。

普及事業においては、周囲の環境を生かした取り組みが行われており、評価される。学校との連携は、博物館を身近に感じてもらうためにも重要な事業であり、これも活発に行われていることは学芸員の多大な労力に感謝したい。

夜間にライトアップされた博物館は趣があり美しく、ナイトミュージアムの開館により、地域の活性化に大きく貢献していると思われる。週末の音楽ライブやワークショップなどの開催により、普段、博物館に足を運ぶことが少ない世代や層の人々にも博物館を身近に感じてもらう機会を与えているのではないかと思う。

博学連携については、例年のことながら、職員・学芸員の方々が、多忙な業務の合間を縫って精力的に学校と連携して教育・普及活動を実施しておられることに心から敬意を表したい。学校との連携は、次世代の子どもたちに美術・芸術に触れる機会を提供する極めて重要な活動であると思うので、ぜひ継続していただきたい。一部、オンライン授業プログラムも施行されたとのことだが、オンラインでの事前学習→博物館に来館して学習という流れができればより教育効果が高まるのではないかと考える。

講演会、諸講座、みどころ解説をたいへん充実した内容と回数で実施することができている。

学校授業への職員派遣の回数、団体見学の受け入れもたいへん多く充実している。

普及事業

- ・極端に参加者が少ない事業については、一考されては如何でしょうか。

博学連携

- ・金、土の夜間会館に伴うナイトタイムミュージアムで、様々な企画を立案され、ご苦労も多かったと思います。

- ・連携授業もスムーズに行われていると推察します。

学習支援交流員

- ・本年度課題だった点を次年度以降に活かしてください。

やさしさと安心の確保

自己評価詳細

施設管理や来館者サービスの向上にむけて、事業者と連携しながら、求められる役割を果たすように努めた。日々の業務のなかで来館者の目線に立ったサービスが提供できるよう常日頃から心がけるとともに、ミュージアムショップ・カフェなどの利用者サービスの向上に引き続き取り組んでいく。

外部評価委員コメント

カフェの品目の幅を広げる工夫が要る。
警備に関して、一人体制(夜間・休日等)ではなく、複数人での対応が望ましいと思う。

開館時を中心に、日々365日安全・安心して展示を鑑賞していただくために、努力されておられることに敬意を表します。
館内の清掃、インフォメーション、応対、カフェ、表にはあらわれない警備、緊急時対応、大規模災害対策、施設管理はある意味「結果がすべて」であり、年間を通じて大きな事件・事故なく、入館者・職員の安全確保・円滑な運営ができておれば、施設として日々十分な、優秀な体制が整えられた結果であり、当然「優れている」と評価すべきものと思われます。
私事ですが、清掃、カフェ、施設内の整理状況、極めて快適と思っています。

清潔感、安心感のある施設があることで、文化面だけではなく 街全体の風紀、安全、市民の意識向上につながると思いますので、基本的な清掃修繕管理をはじめ、今後も入念に続けていただきたいです。
以前一度うっかり楽器ケースを持ってエントランスに入ってしまった際に、チケット購入時にインフォメーションの方からお声がけがあり、預かっていただきました。危機管理の面において頼もしく感じるとともに、インフォメーションの方の朗らか且つテキパキとしたご対応が素晴らしいと感じました。(その節は申し訳ありませんでした。)
混雑時に災害が起こったことを考えると少し不安に感じます。順路や非常口等をしっかり掲示しておいていただきたいです。

施設管理などおおむねきちんとして行われている。

運営事業者が年度途中で変更になるという事態にもかかわらず、施設管理、インフォメーション、ショップ、カフェの運営、警備・清掃共に大過なく適時適切に運営を遂行されたことは大いに評価できる。関係者各位の尽力に敬意を表したい。
また、緊急時対応として、消防避難訓練、地震・津波を想定した避難訓練を実施し、課題を明らかにしたことは大いに評価できる。万が一、大規模災害が発生した際に、来場者及び博物館の職員の方々が安全に避難できるよう、定期的に避難訓練を行っていただきたい。

施設管理

・概ね良好に管理されていると思います。

インフォメーション、ショップ・カフェ

・旧居留地内には飲食店が少ないため、メニューややり方によってはランチの需要があると思います。

警備、清掃

・普段拝見している限り、特に不備や不満はありませんでした。

緊急時対応

・避難訓練については、人の入れ替わりもあり、どうしても不慣れな部分が出てしまいます。訓練時だけでなく、日頃から職員の皆様に減災・防災について、意識を高める工夫をお願いします。